

Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022～2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー  
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン  
ロータリー

会長 高 畠 裕  
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

## 第1761回例会

令和5年6月8日(18:30～19:30)

### ○ソング

- 四つのテスト

### ○スマイルBOX

- 高畠裕会長（いよいよ例会も回顧の時期になってまいりました。本日発表していただいた委員長の皆様ありがとうございました。）
- 齋藤孝弘会員（お祝いありがとうございました。青木さん、ごちそうさまでした。）
- 安部和夫会員（誕生日お祝いありがとうございました。）
- 佐藤清作会員（本年度もプログラムが1年回顧の時期となりました。発表の皆様ご苦労様です。）
- 永野文雄会員（本日発表の小委員会長さん、ご苦労様でした。）
- 金田昇会員（各委員長、一年間お疲れ様でした。とても楽しく充実したクラブ運営でした。）
- 運天直人会員（皆様一年間ありがとうございました。目標達成目前です。最後までよろしくお願いたします。）

### 2022-2023年度 第12回理事会

日時 令和5年6月8日(木)

#### 【審議事項】

- ガバナー選出の件について  
→承認（金田昇会員を西RCで選出する）  
会員全体にも承認をいただく機会を設けたい。
- 次年度納涼会の件について  
納涼例会  
→概要承認（開催日時、場所等）
- ポリオプラス基金の件について  
→承認
- 会長・幹事慰労会について  
→承認

### ▶第1761回例会出席状況 (R5年6月8日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	31名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	10名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	41名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	62
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	66.1%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

## 本日のプログラム

### ■会長の時間



### 高島裕会長

皆さん、こんばんは。今日は小委員会の回顧ということで、間もなくもう年度も終わりかなという時期になってまいりました。各委員長さんには大変お世話になり、本当に何とかこのまま私と車田幹事が6月いっぱい乗り切れるような感じがしてきました。本当にありがとうございました。ということで、先週は県南分区の新旧会長幹事会のほうにお邪魔しました。会場は、甲子の五峰荘のほうに行きまして各県南分区の8クラブの皆さんが集い新旧会長幹事会を開催したところでございます。また、その席上でガバナー候補の選定ということも視野に入れた会議もありました。その中で、白河西クラブのほうから出そうかなというふうなお話もありましたので、今日この後の理事会にてその辺の詳しいお話を詰めてまいりたいというふうに考えております。そういったことでクラブも益々盛り上がってきて、何よりだと思っておりますので、皆さんも是非今後ともクラブ活動のほうよろしくお願ひしたいと思います。また今、肺炎のほうが流行っているらしいので、やっぱりこの寒暖差があったりで体調不良の方が結構出ます。くれぐれも肺炎のほう気を付けていただいて、日々健康な活動ができますことをお祈り申し上げたいと思います。また、先程私、携帯電話ちょっといじって、ニュースを見てるわけではないんですけど、調べ物しようと思って大きいという漢字を一文字入れただけで、もう今や大谷選手が一番最初にすぐ出てくるというような非常に素晴らしい活躍だと思っております。今朝も通算1000盗塁ということで、打ってよし、投げてよし、走ってよし。そして、何が一番素晴らしいって、やっぱりあの謙虚なスタイルですよ。心の持ち方。日本人の本当に誇りだなというふうに私は思っております。また、岩手県のほうが比較的プロ野球選手、そして海外で活躍する選手が多い。岩手県には何かあるのかなというふうに感じておりますが、詳しいことはちょっと私にもわかりません。しかし、東北からあいった素晴らしい選手が世界に出て活躍されるということは非常にありがたいと思っております。今後、福島県、そして白河市、西郷、この辺からもそういった選手が出てくることを、そして活躍できる方々が出てきてくれることを楽しみにしております。今日は小委員会の報告ということで、各委員会の委員長さん、いろいろ本当に一年間のまとめていただいた部分を発表していただくということで本当にありがたいと思います。楽しみにしております。今後とも皆様におかれましても、体のほう十分に健康に留意されまして楽しい日常が送れることをご祈念申し上げて、本日は会長の時間この辺にさせていただきますと思います。どうぞ本日もよろしくお願ひします。

### ■幹事報告

### 車田裕介幹事

- 大野農園株式会社：御挨拶
- 日本事務局業務推進・IT室：ロータリー親睦活動月間 リソースのご案内
- ガバナーエレクト 右近八郎、次期地区研修リーダー 芳賀裕：前期地区委員会総会のご案内
- 白河市赤十字奉仕団会長 安澤荘一

### ■委員会報告

#### ○国際奉仕委員会

#### 諸橋和典委員長



皆さん、こんばんは。国際奉仕委員会委員長の諸橋です。アフガニスタンにランドセルを送る事業ということで、3月から急遽やることになって始めました。皆さんのご協力、各中学校のご協力をいただきまして約200個集まりまして、それをNGOの「ジョイセフ」という所に先週送りました。そこから9月くらいを目標にアフガニスタンに送る予定になっておりますので、皆さんのご協力ありがとうございました。当初50個くらいかなということで、そのくらいの予算だったんですけども4倍になってしまって、こちらから東京に送る運賃、それから東京からアフガニスタンに送る運賃というところが会から出すようになってますので、会の出費が多くなってしまったことをお詫びしまして、ランドセル事業のご報告とさせていただきますと思います。皆さん、ご協力ありがとうございました。

### ■本日のプログラム

#### 小委員会回顧

#### ○プログラム委員会

#### 藤田龍文委員長



皆さん、こんばんは。本年度、プログラム委員会を仰せつかりました委員長の藤田と申します。回顧ということで、報告させていただきたいと思ひます。本年度、プログラム委員会は高島裕会長の掲げるスローガンのもと、プログラムの構成を行ってきました。また、コロナ禍の影響を受けてハイブリットスタイルの例会運営でしたが、このシステムにより、より遠方の方や講師に卓話だけだったメリットもあると思ひます。本年度、会長の職業柄行政関係者の卓話の機会が多かったです。ということは、普段なかなかできない情報が得られたということで良かったと思ひます。また、世界情勢や震災などの対応ができ、ウクライナやトルコなどの関連の方々に卓話をいただいたりして、ロータリーらしいプログラム構成ができたかと思ひます。そのほか、いろんな卓話の部分もなかなかドタバタもあつたんですが、会長の人脈でだいぶ助けていただい何とかなと3回、例会のほう終えることができそうなので皆さんのご協力感謝します。ありがとうございました。

## ○出席委員会

## 兼子聡委員長



皆さん、こんばんは、出席委員会の今年度の一年回顧をさせていただきたいと思います。今年度も諸事情があり、なかなか例会にあまり参加ができませんでした。出席報告も事前にスケジュールを決めていたのですがなかなかできず、永野会員、湊会員、そして島田副委員長にはいろいろとご負担ご迷惑をおかけしたかと思えます。そして、事務局の吉田さんにも直前になって案内を流してしまったりと、そういった事もありましたので、本当に一年間大変ありがとうございました。ということで、一年間お付き合いいただきましてありがとうございました。

## ○ロータリー財団委員会

## 山口治副委員長



皆さん、こんばんは。ロータリー財団委員会の一年回顧をさせていただきます。本来ですと、委員長中目さんが発表するところですが、今日欠席ということで原稿を預かってまいりましたので、副委員長の山口わたくしが今日させていただきます。2022-23年度白河西ロータリークラブ、ロータリー財団委員会活動報告。ロータリー財団委員会のメンバーは、委員長に中目公英会員。副委員長にわたくし山口。委員に、関谷会員、そして遠藤会員というメンバーで今年一年活動をしてまいりました。では、本文のほうを読ませていただきます。ポール・ハリス・フェロー、3人。ベネファクター、1人の篤志寄付者を募る計画を立てました。ポール・ハリス・フェローには、関谷亮一会員、遠藤敦会員、金田昇会員の3名より寄付をいただきました。ここでちょっといいわけなんですけど、わたくしの名前はここにはありません。ということは、今年度ロータリー財団の副委員長なんですけど、財団の寄付はしてなかったということになってしまうんですけども、今年度、財団の寄付を出す方が人数が結構いたものですから、わたくしは成井さんに顔を立てて米山のほうに寄付をしましたので、全くしてないというわけではありません。ということで、ちょっと個人的な言い訳をさせていただきました。続きまして、ベネファクターは我がクラブにおいて認知度が低いため、財団委員長としての責務から中目公英自らが寄付をするつもりでした。しかし、望外の喜びでした。永野文雄会員、金田昇会員より申し出を得て、結果的に3名のベネファクターを輩出することとなりました。篤志寄付者の皆様には、重ねて深く御礼申し上げます。また、クラブより会員一人当たり50ドルを財団年次基金に寄付することになっています。これに加えてポリオプラス基金にもクラブより会員一人当たり10ドルを寄付するように働きかけましたが、もう少し会員一人一人の理解を得てから実施したほうがいいだらうと思ひ直し、今年度はその理解増進の一年としました。これは次年度以

降、ロータリー財団委員会の検討事項としてもらいたいと思います。ちなみに、次年度のロータリー財団委員長もまた中目公英さんです。11月のロータリー財団月間には、17日がロータリー財団委員会担当例会として、「ロータリー財団白河西ロータリークラブの現状に即して」というテーマのもとで、我がクラブのロータリー財団の関わり方、現状把握と今後クラブとしてどのように関わりあうのがいいのか、この事について卓話をさせていただきました。高島裕年度も佐藤幸彦年度も、ロータリー財団の地区活動資金を申請し、財団の補助金を活用した事業を実施することとなっています。この流れを続けていけるよう、次年度の財団委員会の活動に期待しています。山口副委員長と関谷亮一委員、遠藤敦会員のご協力とメンバー一人一人のご支援に感謝申し上げます。2022-23年度の回顧とさせていただきます。ちなみに、先程も申しましたが次年度のロータリー財団委員会のメンバーはまた委員長は中目さん。副委員長が矢田部さん。委員に山口、そして片倉先生というふうな2名が留年というか、2年続けてというふうな形になる予定ですので、先日ロータリー財団での打ち合わせをさせていただいたんですけど今年は私、米山のほうに回ったもんですから、次年度は財団のほうに寄付をさせていただきますということで手を挙げさせていただきました。ということで、回顧とさせていただきます。ありがとうございました。

## ○雑誌広報委員会

## 鈴木典雄委員長



皆さん、こんばんは。雑誌広報委員会の一年回顧を報告いたします。今年度の雑誌広報委員会は、前原会員を副委員長とし、佐川委員の3名で毎月「ロータリーの友」の読みどころの紹介を実施してまいりました。事前準備として「ロータリーの友」を一読すると、ロータリーの中で話題になっている事や、新たな取り組み、クラブの活動など、大変役立つ記事が掲載されているロータリアンの会報だと気づかされ、そういった記事を中心に紹介してまいりました。そして、担当例会では「ロータリーの友」の歴史について卓話をしたことにより、恥ずかしながらロータリーの三大義務であるロータリーの雑誌の購読ということを改めて知ることになり、自分自身にとっても勉強になった一年でありました。最後に一年間、雑誌広報委員会の活動にご協力いただいた、前原委員、佐川委員には、大変感謝申し上げます。最後に、会員の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

○ロータリー情報委員会

車田裕介幹事



それでは、中目委員長のほうから届いているロータリー情報委員会の回顧を読み上げさせていただきたいと思えます。RI2530地区の地区大会や県南分区分IMと一緒に開催された新入会員研修に入会3年未満の新入会員の参加を呼びかけ、ロータリーの基本的な理念を共有できるように支援しました。令和5年5月25日には、ロータリー情報委員会担当例会という時間をいただき、「ロータリーと例会」というテーマのもとで奉仕の理念への理解を深め、例会とは親睦と学びの場であり、例会出席がロータリアンの務めであることをクラブ会員に、とりわけ新入会員にしっかり認識してもらえよう卓話をさせていただきました。しかし、柔軟に変革を続ける国際ロータリーの最新情報をクラブメンバー全員にタイムリーに伝えることを基本方針としていましたが、規定審議会開催を受けて標準ロータリークラブ定款が一部改正されたことを正しくお知らせする時間が確保できず、少し心残りとなってしまいました。新入会員が多い我がクラブにあっては、ロータリー情報委員会の任務は重要でありますので、次年度以降はさらに委員会活動が活発になることを期待します。吉野敬之副委員長と鈴木孝幸委員のご協力と、メンバー一人一人のご支援に感謝申し上げつつ、2022-23年度の回顧といたします。ありがとうございました。ということで、代読させていただきます。

○IT委員会

鶴丸彰紀委員長



今年度、IT委員会の委員長を仰せつかっておりました鶴丸です。一年回顧をさせていただきます。今年度のIT委員会は、副委員長に十文字光伸会員。委員に諸橋和典会員、井上敬裕会員、水上泰真人会員でした。水上会員については、職業奉仕の関係と会社設立後間もないということではなかなか出席は難しかったんですが、ハイブリット例会を常設するために全員が一丸となって、毎回の例会に早い時間から来て徹底した準備を行うことができました。実は例会のない日なども、普段会員の皆さんの目の触れてないところでもITメンバーには沢山の協力をいただいています。例会中にはできない機材のセッティングや調整などを着実に行えたことで、現在では当たり前となったズーム配信、オフィス等のスクリーン投影、例会記録、音楽やDVDなどの会場とズームの同時放映、音響障害の低減など、いろんなご要望にかなり対応できることが広がってまいりました。また、IT委員会の仕事はハイブリット例会だけではありません。白河西ロータリークラブのホームページの更新や、大幅なりニューアルも行っています。ホームページに関する大きな改善点では、会員名簿や例会プログラム予定表、組織表などがスマホやパソコンでいつでも閲覧できるようになっています。年次計

画書の冊子を持ち歩いていない場合でも、いつでも名簿や計画表が外出先でも確認できるようになっています。また、SNS活用では高島会長に毎週ご執筆いただいている定期的なフェイスブック配信の拡散。また、現在では毎週配られる紙の週報なども、過去2019年度からのバックナンバーをホームページのほうにすべて載せるようにしてあります。ホームページ内で閲覧、過去の分まで遡れることで数年前の同時期にどのような活動が行われていたかなどの参考資料としてもご利用いただいています。IT、デジタルの活用と効率化という2530地区の目標に対しても、十分な土壌になる一年となりました。これが続けられましたことも、一年間途切れぬ努力をいただいたITメンバーの皆様に合わせて、沢山のアドバイスやご助言いただきました高島会長、車田幹事に感謝します。また、週報などのデータを毎週欠かさず送っていただいている渡部会員、ホームページ改良や更新などで外部協力をいただいております矢田部会員のご子息のウェブ制作の崇様。また、ハイブリット例会に際し事前情報などのご協力をいただきました各委員会、また委員長様にお礼を申し上げまして、一年の回顧とさせていただきます。ありがとうございました。

○米山記念奨学会委員会

成井正之委員長



それでは、米山記念奨学会の回顧をいたします。米山記念奨学会委員会は、副委員長に安部和夫会員、委員に石部辰雄会員、佐藤清作会員の4名でありました。年次計画のプログラム修正で、奨学会の事業であります啓発活動の講演会等を行うことはできませんでした。しかし、年次当初の寄付者の呼びかけに対し、永野文雄会員、金田昇会員、山口治会員と私の4名、特別寄付の目標を達成。また、クラブからは年間5千円×65名という寄付の目標を達成することができました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げて、一年回顧といたします。誠にありがとうございました。

○スマイルボックス委員会

運天直人委員長



それでは、スマイルボックス委員会の一年回顧を発表させていただきます。本年度、スマイルボックス委員会は副委員長に今はもうなくなってしまいました藤田和克会員と、委員に佐藤清作会員、瀬谷隆志会員の4人で活動してまいりました。本年は、当初昨年が120万円の予算でしたので、120万円でいこうかなと思ったんですが、大変申し訳ないんですがノリで150万円いっちゃえというような形でですね、150万円ということで皆さんの前で発表させていただきました。やってみて気付いたんですけど、非常に大変な一年でした。しかし、毎月の集計を発表させていただくことと、あと会長の時間でよく会長が皆さんにスマイルお願いま

すというふう呼びかけていただいたことと、いろいろなことを皆さんのお力借りて一年間活動してまいって、お陰様を持ちまして何とか目標の150万円を達成する見込みとなっております。今月まだあと3回ありますので、まだ150万円には達しておりませんが、通常の月のスマイルを積み重ねていくと150万円を達成するという今状況ですので、改めて達成した際には皆さんにご報告をさせていただきます。また、西クラブは出席率もいいのでスマイルは多く集まるのかなと思いますが、反省としてイベント例会というか、外に行った例会の時だとか、あと移動例会、ここでやらない例会の時に、なかなかスマイルをする環境を提供できなかったというのがあって、そういった部分ではスマイルがなかなか集まりづらいという反省がありましたので、来年の委員長、その辺を加味していただいて繋げていただければと思います。何はともあれ、皆さんのご協力が本当にあったおかげで一年間スマイルボックス委員会をさせていただいて、何とか目標達成のところまで漕ぎつけてまいりました。本当にご協力いただきました会員の皆様、一年間本当にありがとうございました。

#### ○ビジョン推進・研修委員会 宮本多可夫委員長



ビジョン推進・研修委員会の回顧をしたいと思います。クラブの組織的な基礎を固めて、将来に向かってのクラブのビジョンを策定するという当委員会の目的のもと、具体的にはホームミーティングで全会員が我がクラブのビジョンを話し合う場を設けて、将来のビジョンの共有化を図る。必要に応じて、定款または細則の勉強会の機会を持つというような方針を掲げて活動してきました。まず、定款、細則の勉強会につきましては、7月に早速例会の場を設けていただきました。今年度は、3年に一度の規定審議会が開かれて、その会議の結果が出ましたよということを受けて、若干ですけども定款変更があったと。これは規定審議会の結果が出れば、我々各クラブが決議することなく自動的に変更になるという、そういう決めにとなっておりますので、我がクラブのほうもそれに従って、具体的には二か所ちょっと変わるところなんですけど、それは次年度の年度計画書の中には改めて改正された部分が印刷されてくると思います。それで次年度も私のほうでビジョン推進研修委員会のほうを担当させていただくという話になっていきますので、ここで次年度の活動を言ってもあれなんです。いろいろと皆さんと話していると、定款とか細則というのは、年次計画書の後ろにくっついて印刷はされてるんだけど、実際目を通す機会というのはなかなかないということを受けて、この来年度始まり早々にまたビジョン推進・研修委員会の担当例会がある計画していただいている状況のようなので、次年度はもう定款と細則の読み合わせ例会をちょっと一回やってみて、こんなふうになっている

だということを変更して皆さんで認識して共有する場をもうちょっと深めていければなど。これ、次年度の話になっちゃって回顧じゃなくてすみませんけども。今年度の反省も踏まえながら、そういう事を少し次年度は考えてみようかというふうに思っています。こういう定款とか規則というのは、我々はどうも問題が発生しないとなかなか目を通さないというのが日常どこにもあることです。問題もない状況の中で最初から最後まで目を通すなんていうのは、文章が文章で、非常に飽きちゃう話ですので。皆さんと時間を抑えていただいて読み合わせすれば、少し勉強になるかなというふうな感じをしております。その機会に改めてまた皆さんと一緒にやってきたいというふうに思います。次に、本年度ホームミーティング二回開かせていただきました。それで、いろいろテーマを執行部のほうから作っていただきましたけども、基本的には少数で集まった中で、我がクラブを良くするために将来どうしたらいいかということ、酒間の中で熱く語り合って非常に楽しい時間、まあロータリーのロータリーらしい活動というような実感を持っていただくと同時に、将来の我々のビジョンを描く場でもあるというような事を踏まえて、今年度も年二回やっていただいたことについては、そういう将来のビジョンを共有化するというについては絶好の機会を企画していただいたというふうに思っております。このビジョン推進委員会でガバナーなどのご指導の中には、アンケート調査なんかしてみたらどうなんですかというような事をこう言われるんですね。今年度も今までこれやってこなかったんですが、私のこれそこはちょっとやってないということ、反省のところではあります。ただ、実質的な話といえば先程言いましたようにホームミーティングで少数でいろいろ議論する中で、各人各人がビジョンを共有化できたというようなことで、必ずしもアンケートを、ガバナー的にはそのアンケートみたいなものがあって、その結果を報告書かなんかで年度計画書か何かにあげれば非常に素晴らしいんじゃないかというような事なんです。中身的に言えば、私はホームミーティングでの議論のほうに非常にビジョンの共有化という意味では中身があるんじゃないかというふうな感じはしております。次年度以降、そのアンケートなんかをどうするかということは、もう少し検討はしていきたいと思っております。例えば、その中でもどうしても将来のビジョン的なことでいえば、この男女平等といいますか、女性会員がどのくらいの割合が理想かというようなところを客観的に議論する。あるいは、今年度もそういうテーマがありましたけど、いろいろ各人が思うところを話し合う中で、この我が会の持つべき将来的なビジョンの中で女性会員3割というような言い方をしています。国なんかもね、3割的な事を企業とかいろいろ組織内では指導部に3割のというようなことで、世界的にもそういうような動きの中で、この女性の1週間くらい前の目にしたニュースの中では、ちょっとロータリーから離れますけど、日本

の場合は会社の役員についての統計だったと思いますけど、日本は19パーセントくらいですかね。韓国とか中国は11パーセントくらい。アメリカは4割強で、イギリスとかヨーロッパのほうは50パーセントを超えてるといような、そういう流れです。これは弁護士会も含めていろいろな所で議論はしてきましたんですが、日本政府自体も各団体について、何年度までに何割をしなさいという行動計画で指針は示して、それを下におろしていろんな会が議論してきましたんですが、ただ、国会自体、議員さん自体、あるいは内閣自体が非常に女性に対して本当に本気になってかかっているのかなという事に疑問を抱かせるような態度でずっとやってきたんですね。一方で、行政的にはそれやりなさいという計画書を指示して、一般では指示しながら、国会あるいは内閣はあんまりそれに対して模範を示してこなかったというのが現状なんです。だから、日本は今のところまだ中途半端です。そういうこれは社会情勢ですけど、その中で我がクラブというか、ロータリー自体も今3割くらいのところを一つの目標にしてるといことで、率先垂範というかロータリーはそういう指導的の社会において一つの模範的な団体でもあるから、そういう事をやりましょうといことの中で、我々もこの3割あるいは4割というか、どういう目標にするかといところを、この辺もビジョン委員会としてはどういうふうな形で皆さんとこの目標を共有できるか、あるいは一方的に、上からの目線で何割にしましょうなんていってもなかなか解決しない問題でしょうから、末永く時間をかけて皆さんと問題意識を持ちながら共有化していきたいといふうなことを考えております。一応そういうことで本年度ビジョン推進委員会、いろいろ皆さんに世話になって活動してきましたけども、こういうことで報告終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

#### ○社会奉仕委員会

齋藤孝弘委員長



社会奉仕委員会の委員長の齋藤でございます。副委員長に、関谷さん。委員に、片倉先生と吉成真五郎さんと4名で事業を行ってまいりました。会長から持続可能な変化をもたらす事業の推進といことで、非常に難しいお題をいただきまして、何をしたらいいかという非常に悩んだんですが、まず、何をしたらいいか聞いたら、子供たちを健全な方向に進めてくれといような形でお題をいただきまして。やっぱり人は幼少期からの教育が大切だといことで、ある程度小学生になったら一流の文化に触れたりすることが非常に大事だといことで。そのことに対して支援をしていくといことに落ち着きました。いろんな事があるんですけど、一流の文化に触れるといってもなかなかその容易な事ではなくて、お金もかかりますし時間もかかると。平たく皆全員に与えることはできないんですが、その中でも

少しづつ事業を進めてまいりました。一つは、体育文化支援事業という題にさせていただきました、子供たちにいろんな支援をしていこうと。公立の学校だと、なかなか体育文化に関する予算が少なく、いろんな物が買えなかったり準備できなかったりすることが多くて、非常に学校で困っているといことで。今年はいろんなところでリサーチした結果、中央中のほうの器楽部で楽器がもう古くて対応できないといことで、中古なんですけどトロンボーンとフルートをご支援させていただきました。中央中の体育館で全校生徒の前で寄贈させていただきました、ロータリーの社会奉仕といのはどういうことかといことも、一応お話させていただきました。ロータリーの存在を知らしめできたのかなと思っております。その他に「未来ある子供たちの食育プロジェクト」といことで、その辺のことをやってくれといことだったので。環境問題がやっぱりどうしても今最近クローズアップされてて、フードロス問題を子供たちによくわかってもらいたいといことで支援事業を行いました。前もこの場でお話させていただきましたと思うんですがフードロス、日本で約670万トン。ただこの数字は、家庭から出るフードロスでありまして、企業から出てくるフードロスは入ってません。なので、企業から出てくるフードロスはここに多分100万トンくらいプラスされるのかなと思います。米屋なのでちょっと米に例えさせていただくと、約650万トンの主食用の米の中、ほぼほぼ全部捨ててるような非常にもったいないことになってます。地球上の人口が80億を超えた現在、地球上で食糧難になってくるといことは目に見えていて、この事も小学生の給食を提供するといことで、皆さんにわかってもらいたく行いました。当日は、講師に保育士の平野さんをお呼びしまして講演をいただきました。地産地消といことで、福島県産の和牛のステーキを給食に提供させていただいて、私たちも一緒に食べさせていただきました。非常に美味しくて風評被害の払拭にもなったんじゃないかなと思っております。卓話に関しては、「大野農園」の大野さんをお呼びしまして卓話をいただきました。非常に福島県の農業の若手農業者のリーダーをとっての方でいろんな事をやっております。自分達でもいろんなことをやってるんですが、特に地域を巻き込んで、それを本当に一つの産業にしていくとい高い目標の中で実践してる方で、非常に考え方や行動に感銘を受けて、その後も高島会長と飲ませていただいたんですが、高島会長も非常に喜んでいたと思っております。主に三つの柱でやらせていただいたんですが、いろんな形で一応社会奉仕の形はできたかなと思っております。いろんな方にご協力いただき、一年間ありがとうございました。